

・・・雨でも休まず、278, 279回・・・

### 「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・ 定例活動1：3月7日（第一日曜日）；森林整備活動、担い手育成、技術向上。「持続的森林経営：森林地団地化・集約施業」を目指す。弁当持参、参加費：400円
- ・ 定例活動2：3月21（第三日曜日）：若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動：白梅の木の下で“茶亭・ムササビ庵”。参加費400円、主食・自分の食器、飲料水。

\*注意1：初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ。

・ 服 装：汚れても良い服装、着替え・滑らない靴。

・ 持 参：成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水

\*注意2：危険管理・救急体制：森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

### ・・・助け合う仕組みとしての“公を担う”NPO活動・・・

アメリカの経済学者：ピーター・ドラッカー博士が「自由競争経済至上主義が行き詰って、非営利活動が21世紀の中心的制度になる」と言った事は、以前にも述べた。

去る1月28日（木）に、鳩山首相が衆参両院の本会議で行った施政方針演説で、NPOを「新しい公」と位置付け「“官”が独占してきた領域を“公を民間に開く新しい公共実現”に向け、NPOなどが活動しやすい環境整備の制度を拡充する」と表明した。

この施政方針は、鵜呑みに出来ない。当会は「かくあるべき、より良い森林環境」を考え、己を捨てて行動しているが、行政とのやり取りの現場では、NPOを利用できるだけ利用しようと言う場面にシバシバ出会う。全ての役人がと言う訳ではないが、「好きでやっているのだから、当然でしょ」と言い、「元々、善意だけと言うのはあり得ない、どこか魂胆がある筈」と決めつけ、時には「生意気だ。仕事を回さないぞ！」とドウ喝することがある。事例を示す証拠を持っている。我々は、仕事が欲しくて活動しているわけではない。NPO活動を理解していない言は、許せない。行政・司法・立法トップに携わる身辺が怪しい人の言う事をどう受け止めて良いか。

人件費を認めないと言う支援団体が増える傾向にある。持ち出しで“公の仕事”をしるというのか。NPO活動を“食いぶち”と支援団体にタカル輩もいるからそうなる。

① だから、支援する側にも余程の見抜く力が求められる。

② 制度をつくるだけでなく、使命感から犠牲を払って正直に活動している団体を支える事も十分に検討してもらいたい。

“官”がぬくぬくとしていて「“官”が独占してきた領域を“公”に開く」とか言って、どこまでNPO活動の本質を理解しているのか。官は自らを省みて欲しい。

## ・小原本陣の森：定例活動（2月7日：第一日曜日）

Forest Nova☆ 麻布大学1年 木島美華

今回の活動は、1月の活動がお正月のためなかったもので、新年初の小原での定例活動となりました。

立春を過ぎましたが、2月はまだまだ寒い季節・・・さらに先日降った雪が森の中ではまだ完全には解けきっておらず、寒さは増していました。こうして今回は、辺り一面雪景色の中で作業を行いました。

今回は、今までと引き続き、中里山での土留め作業を午前・午後を通して行いました。



残った雪の影響か、寒さは一段と厳しくなっていたように思います。さらに、雪の積もった斜面は滑りやすく、滑落、転倒することもしばしば・・・しかし、それでもめげずに作業を行いました。

前回の続きとして、まだ行われていなかった部分の土留めを行いました。緑のダムの方、北都留森林組合の方、Forest Novaは2手に分かれて、それぞれ別々に土留め作業を行いました。また、前回行った土留めの補修・補強を行った部分もありまし

た。

前回までの活動で土留め作業はかなり進んでいたようで、なかなか土留めに使う丸太や、木をかける切り株などが見当たらず、苦勞する場面もありましたが、協力して作業を行った結果、うまくまとめることができましたようでした。今回の活動で、土留め作業はかなりのところまで進んだのではないかと思います。



.....

- ・ 木島学生の初投稿です。1年生らしい新鮮な感じのする名報告と感じます。文中、滑って転んでと“あぶないなあ～”の表現がありますが、もう20回以上の参加ですので学生たちは、森との付き合いは慣れており作業ぶりを見ていましたが、周りへの観察・気配り、足元がシッカリしていたので、むしろ若いだけに“ましらの如き身のこなし”と安心して見ておれました。降雪はなかったが、“雨でも休まず”です。但し、雨などの日は、駅前公民館で「森林学習会」を行っています。

## ・森林組合との協働

この日、「北都留森林組合」から2名の技術職員が参加した。理由は、市民団体・NPOが「林地団地化・集約施業」と言う先端的な森林施業のどんな思い・方法で取り組んでいるか、実際の作業にどのように取り組んでいるかを視察と言う事であった。今回の森林組合との初協働は、森林NPOと森林組合の新しい局面を迎える事なるだろうと予感する。

“ボランティアは自分のため・・・！？”

2月にしては暖かな小春日和の日、梅もほころんでいる。

今日は、“緑のダム体験学校”参加の親子連れや姉妹高校生ら12名、望星高校の檜木先生の友人の若林小の副校長先生、望星高校12名、そのOB数名。学生連合ノバ10名、一般参加21名他、飛び込み参加10名ばかりで60名以上の参加と森が多様なら参加者の顔ぶれも多様。

- ・望星高校の森：連理先生（宮村）、檜木先生等、ベテラン先生方の指導で急斜面での間伐、枝打ちと高校生もベテランクラスに技術成長して、なかなかのハイレベルの森林整備に取り組んでくれる。本日の成果：枝打ち20本、間伐6本、林床整理。混んだ森での間伐は、倒す方向を誤るとスグ、掛り木（隣の木に引っ掛かって倒れない）になって始末が悪いが、ベテランクラスの校高校生たちはピタリ、狙った方向に伐倒する。
- ・森林整備：川田隊長指揮のもと、森野経路整備。午後は今の基地が手狭になったので隣の広々とした陽当りのよい広場に移るための整地作業。新基地の周りをベンチで囲むようにして、見晴らしも良く、明るい雰囲気。
- ・花畑班：主に雑草抜きと整地作業。のんびりと暖かな陽差しがうれしい！。チューリップの球根の芽の春近しと顔をのぞかせ始めた。
- ・お 昼：暖かなシチューに湯気の立つ温キャベツに「ニンニク醤油+からしマヨネーズ味噌」のタレ。ウマイウマイ！。お昼、皆んなが集まって賑やかに家族的な雰囲気と同じものを食べるには、お互いに心が通い合うものがある。
- ・緑のダム体験学校：午前中は斎藤学校長による「緑の森＝緑のダム」を易しく解説したも英の働きを説明。午後は間伐体験。ベテラン：斎藤名学校長のご指導は、マスマス好評。親子参加の本間莉乃ちゃん（6歳）智也くん（8歳）の愛くるしいご挨拶は嬉しかった。お母さんの「親子でとても良い経験をさせていただきました」とのお礼あり。姉妹参加の女子高校生大川さんは「間伐で、木の倒れる迫力とか、ロープで引っ張って狙った方向に倒すとか、凄い！」。定年退職後の生きがいを探していると言う丸井戸さんは“倒木の地響き、森の生きてる姿、生命の息吹き”に感じ入ったとの事。
- ・終礼では、新装なった陽当りの良い基地広場で行った。各班ごとに今日の活動成果を発表するのだが、班毎に夫々の成果を発表さ全体像を共有できるのだ。これも素晴らしい仕組みと思う。

.....

爽やかな汗をかいた後の、駅前食堂カドヤ会議では、望星高校OB生のまた一つ、大人になった学生と連理先生や、ワンダルキさん等がビールを空けながら「生きるとは何ぞや」とかの突っ込の議論には、得もいえぬ青春を感じるものでありました。ワンダルキこと、白石晴樹さんは「森林ボランティアの意味を考えたら結局は、自分のためなんだ！！」

## 湘南の森・活動報告：1月23日（土）晴れ・無風

冬を思えぬ温かさ、参加7名。全国森林ボランティア神奈川県から佐藤（憲）が参加。

午前中はセンターヤード東端の杉林と境界付近の遊歩道沿いに主に笹藪を中心に刈り払われた。不毛の荒廃した杉林は、暗く下草もなく、青木のみがみられる。この部分は杉の思い切った間伐をする必要があると思われるが、市および地権者に森を再生するという意欲が全くないように見受けられるので、当面これ以上の作業は行わない。

午後は、バックヤードの河津桜付近の下草刈りと、桜の枯れ枝の枝打ちをした。河津桜は開花を始めている。また、ともしびショップでミーティングを実施、下記のような方針を確認した。

- ① 懸案の新年会を今回、実施出来なかったため、4月に改めて総会と花見を兼ねて行う予定。
- ② 2月の作業は彼岸花職制地の東側の下刈りと、枯れ死した山グワの大木の伐採処理をする。

かねてより懸案だった湘南の森ボランティア募集用のチラシを作成、平塚市内各所に配布するとともに、杉山先生経由で東海大学の学生のボランティア募集にも使用する予定です。他にも配布先がありましたら送付します（佐藤記）

## NPO活動の自立に向けて。

当会では何とかして自立したいといろんな事に挑戦している。F S C間伐材で積木を作って通販にかけたり、ベンチを作って福祉協議会に買って貰ったりしているが、経済的自立には程遠い。

霞ヶ浦の「(特)アサザ基金」とは交流がある。霞ヶ浦の自然浄化システムの構築で国交省から年間34億円の予算で非営利活動した“アサザ基金”が、活動の目的を終えた今、次なる活動をどうしているか。アサザ基金は現在、霞ヶ浦の漁業の大打撃を与えている外来魚や利用価値のない雑魚を魚粉飼料にして、鶏に食わせブランド鶏卵として売出したり、有機肥料にして農協経由で農家に売り、その生産物は「湖がよるこぶ野菜たち」と名付け商標登録したりしている。最初はキュウリを作ってみたが売れ行き好調で、小松菜・ホウレンソウなどの他に小麦の生産にも取り組んでいる。この取り組みは、利根川流域での「漁業— 農業— 消費」の循環の中で環境再生を進めると同時に、経済活動を展開するという新しい視点の“食育”と捉え学校教育にも取り入れている。

だが、国交省事業と有機野菜の栽培・売出しと言う事業の何というギャップか。アサザ基金が、霞ヶ浦の浄化システム構築以後、雑魚の肥料化で活動を継続している事は驚きだ。こんな工夫をしているが“経済的自立は程遠い”と苦しんでいる。非営利活動の自立の難しさが、我が身に詰まらせる思いだ。

相模川流域で森林の保全・再生活動をしている当会は、相模原市に環境と経済が両立する「内陸・グリーンハブ都市」を提案している。その方法として「木」が太陽エネルギーの塊として膨大な事業の可能性があると主張だ。つい最近の新聞報道で「木くず・稲わらなど“非食糧原料”を糖に・・・バイオ燃料の生産効率2倍」、という報告があった。繊維分解に関わる酵母で木くずを発酵させエタノールにするそうだ。

また、マーケット開発が難しく余り進んでいないが、真空炭化炉で焼いた炭を物理的・生物

学的処理をする事によって建材などに含まれる有機化学物質・ホルムアルデヒド (HCHO) や硫化水素 (H<sub>2</sub>S) やアンモニア (NH<sub>3</sub>) などの吸着分解剤の利用開発にも取り組んでいる。有害ガスを物理的に吸着し、これを分解する微生物によって無害化する仕組みだ。当会は森林に拘って新製品の開発に拘っている。

こんな事に取り組むつつ今は、行政や環境支援団体の補助金・支援金で生き延びているが、何とかして自己財源を捻出して、この活動を継続したい。非営利活動にも営利活動をする事は認められているが、営利事業に取り組むと NPO 活動の使命を逸脱することになり、普通の営利企業（会社）と見極めが付かなくなる。当会は、環境再生と経済活動の両立が最終目標だが、どう進めるかが解決できない。こんな中、林野庁から NPO 活動のすこし希望の見える 22 年度林野取り組みの概要が送ってきた。

## 平成 22 年度・林野庁予算の概要

\*概算決定額：2873億7千5百万円（前年比 75.9%）

前年：3786億5千9百万円　・・・・・・・・

① 森林・林業・木材産業つくり交付金：70億8千5百万円（前年比 53.6%）

- ・対象：年間約 2000 万 m<sup>3</sup> の林地残材を生かす政策
- ・内容：1) 望ましい林業構造の確立  
2) 木材利用、木材産業体制整備推進
- ・支援：1) 林業経営を担いうる事業者（都道府県・市町村・林業者・木材関連業者）  
\*国産材への転換：公共施設の整備、製紙用チップ、燃料用木質バイオマス利用。
- ・事業主体：都道府県、市町村、森林組合、林業者、木材関係者

② 森林整備地域活動支援交付金：71億2千万円（前年比 71.5%）

- ・対象：集約化施業に必要な「森林情報収集、境界の明確化、集約作業」
- ・内容：1) 集約化に必要な地域活動の費用——1 ha 当たり 15,000 円を支援。  
2) 実施に必要な地域活動への支援——1 ha 当たり 5,000 円を支援。  
3) 集約化・施業の必要な地域活動支援  
4) 交付金の適正・円滑な交付を必要となる経費への助成
- ・定額支援
- ・事業主体：都道府県

③ 山村活性化総合推進事業：5億3千7百万円（前年比 73.2%）

- ・対象：NPO 等、地域の多様な主体の連携により森林資源の新たな利用、活性化活動
- ・支援：1) \*社会的協働による山村再生対策：2億9千万円  
2) \*山村再生総合対策（新たなビジネスモデルづくり）：1億7千7百万円  
3) \*森林総合利用推進事業（里山林整備、里山資源活用）：5千万円（前年零）
- ・定額支援
- ・事業主体：NPO、民間団体

④ 森林の生態多様性保全総合対策：10億1千3百万円（前年比 602.9%）

- ・対象：国民の理解度促進、国内外への発信

- ・内容：1) \*生態系多様基礎調査：4億5百万円（前年・零）
  - 2) \*デジタル森林空間情報技術開発：2億9千3百万円（前年・零）
  - 3) \*森林環境保全総合対策：3億5百万円 前年比193%
  - ・定額支援
  - ・事業主体：民間団体
- ⑤ 森林づくり国民運動推進事業：1億2千1百万円（前年比66.5%）
- ・対象：森林づくりに参加する企業、NPO等
  - ・内容：1) 緑化に対する国民の理解促進
  - 2) 温暖化防止、生物多様性に向けた森林づくり実践
  - 3) 企業等の森林づくり参加の働きかけ
  - ・定額支援
  - ・事業主体：NPO、企業、民間団体
- ⑥ 集約化施業促進等経営支援：7億3千万円（前年比34.4%）
- ・対象：集約化施業に取り組む林業経営体
  - ・内容：1) 集約化・供給情報集積：6億1千万円
  - 2) リースによる高性能機械導入：1億2千万円
  - ・定額1/2
  - ・事業主体；全森連、全木連
- ⑦ 緑の雇用総合対策：95億2千7百万円（前年比97.6%）
- ・対象：林業に従事したい者
  - ・支援：1) 緑の雇用担い手対策：90億5千万円
  - 2) 林業就業者能力向上：2億9千万円
  - 3) 林業経営者育成確保：1億2千1百万円
  - ・定額支援
  - ・事業主体：全森連、民間団体
- ⑧ 木材産業活性化総合対策：2億2千2百万円（前年比81.6%）
- ・対象：地域の木材関係企業等
  - ・支援：1) 地域材の水平連携加工システム推進：4千2百万円
  - 2) 製紙用間伐材チップの安定供給；2千2百万円
  - 3) 木材供給高度化設備リース促進：1億5千8百万円
  - ・定額支援
  - ・事業主体：民間団体
- ⑨ 国産材利用拡大総合対策：15億5千4百万円（前年比：481.1%）
- ・対象：民間団体
  - ・内容：1) 住宅分野への地域材供給：4億8千8百万円
  - 2) 地域材利用加速化推進：7億2百万円
  - 3) 木材利用グリーン協働：1億4千8百万円
  - 4) 違法木材排除、合法木材利用：1億3千9百万円
  - ・定額支援

・事業主体：民間団体

⑩ 木質バイオマス利用：6億2千2百万円（前年：零）

・対象：電力等大口需要者、公共施設、小口需要者

・支援：1) 原木供給者・需要者の需給マッチング、定額1/2

2) 林地残材収集、運搬コスト低減、定額1/2

3) 木質ペレットの安定供給・流通体制整備、定額

4) 木質バイオマス普及の基盤づくり、定額、1/2

・事業主体：民間団体

⑪ 森林整備・治山：

森林整備：1千1百81億9千7百万円（前年比：146.8%）

治山：688億3千3百万円（前年比：69.0%）

.....

仕分け作業のせいか総額に於いて前年比 73.9%と大幅な減額になっているが、事業によっては、零から巨額の予算を付けた事業がある。従来、都道府県・森林組合への支援が中心であったが、NPOや民間団体への支援増加は、特定の専門家だけでなく広く国民一般の参加・理解を得て進めようとする新たな方向が読み取れる。当会として来期の活動方針と予算編成は、おおむね固まっているので急に、国の制度の取り入れは出来ないが、その仕組みについて大いに研究して再来期以降の事業方針に取り入れる事が出来るなら当会は、もっと落ち着いた効果的な活動を実践することになるだろう。

当会は県や市の政策とは緊密な連絡と実践があるが、国の政策とは皆無であったから、これとどうかかわれるかは未知であるので、来期はこれとの関わりあいを研究する。若し、有効に接触出来れば、活動資金の確保と新たな展開の途を開くことができる。

### \*以下、個別の政策との関わりあい

① 森林・林業・木材産業づくり：木質バイオマスエネルギーについて当会は、平成16年度は神奈川県・科学技術振興課興課、17年度に林野庁と可能性調査をしており再度、チャレンジしてみたい。

③ 山村活性化総合推進事業：特に、NPO、民間団体と指定しており取り組んでみたい。

④ 生物多様性保全総合対策：当会には、この知識を持つ人材が多いので検討したい

⑤ 森林づくり国民運動推進：NPOや企業への指定としており取り組むべき事業である。

⑥ 木材産業活性化総合対策：予てより木材流通の複雑さについて疑問を感じている。当会は、相模原市に「内陸・グリーンハブシテイ構想」を提案しており、相模原市と協働することになれば、林野庁の打ち出した政策との接点が増えると言う事だ。

⑦ 国産材利用拡大総合対策：地産地消・地域材流通を進めたい当会として取り組みたい政策である。

・特に、①に付いては専従者と協力企業が必要となる。③と⑤は、NPOを指定している。更に⑤-3)では企業の参加を呼び掛けており、これまで企業との接点のなかった当会活動の新たな切り口になるのではないかと。

## 参考：欧州の森林利用・木材バイオ燃料：(出典：木質バイオマス利用研究会)

昨年 8 月の速水林業に向かう車中で、学生連合フォレストノバの斎藤学生の意見、「有限の化石燃料の枯渇を心配するくらいなら、無限の太陽エネルギーを固定化する森林資源・木質バイオマスエネルギーの用途開発を考えれば良いじゃないか」という発言を聞いて以来、森林資源の有効活用を考えている。森林資源有効活用欧州 3 カ国の資料が手に入った。

\*図 3、からは、木質バイオマスエネルギーが化石燃料に差し替わっている。図 7 からは、我が国の潜在生産能力が ha 当たり 6.3 立米に対し成長量 4.2 立米。スウェーデンは潜在生産量 4.8 立米当たり成長量 4.1 立米、131、2%。現実生産量は 2.5 立米に対し我が国は 1.5 立米。如何に我が国の森林利用効率が悪いか。

\*同様ドイツでは、潜在生産力が 6.7 立米に対し成長量が 7.0 立米と言う事は、森林管理が徹底していると言うことだろう。生産量も 4.0 立米と高い数値を示している。

\*森林面積が 70%の森林資源大国・我が国は、スウェーデンに学び、英・独の森林政策を取り入れるべきだ。

林野庁が、開策を講じようと広く国民参加を呼びかけ、森林理解を推進しようと政策に見直しを図っている。国民として、これに協力しなければならない。

### ・感謝：「かながわボランティア基金 21」に。

巻頭で林業行政への不信を強く述べたが当会は、平成 15 年来、5 年間、上記基金 21 の恩恵を多大に受けてきた。今の当会有るのは「かながわボランティア基金 21」のお陰である。

国際 FSC の森林認証を受けたのも、国土緑化推進機構の会長賞を受けたのも、今こうして相模原市に当会活動実践の裏付けを持って政策提言できるのも一重に、神奈川県「ボランティア基金 21 制度」が支えてくればこそだと感謝に堪えない。今年でこの支援も終わりになるが、この 3 月 31 日締めで報告書を提出するが、これを礎に更なる発展に繋げたい。

- 
- ・活動のモットー : 急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・・そして、沢山の参加で森は、良くなる。(台風の日も勉強会開催。13年間、一日も休まず“継続は力”。)
  - ・名称 : 特定非営利活動法人 緑のダム北相模
  - ・事務局 : 154-0023 東京都世田谷区若林 3-35-9
  - ・発行人 : NPO 緑のダム北相模 運営委員会 03-3411-1636
  - ・HP : <http://midorinodam.jp> E-mail: [info@midorinodam.jp](mailto:info@midorinodam.jp)
  - ・協働団体 : 神奈川県(政策部・環境農政部・県央地域総合センター森林課)、セブーンイレブンみどりの基金、相模原市(市民協働推進課)、毎日新聞社水と緑地球環境本部、東海大付属・望星高校
  - ・ご支援の団体 : WWF/JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFE メカニカル、東急コミュニテイ、(社)国土緑化推進機構